

# 全国から善意の輪 感謝の大輪



知的障害者が働く富津市西大和田のコチョウラン栽培温室「オーキッドガーデン」は、9月の台風15号の停電により、大切に育てていた苗約5000株が枯れて売れなくなった。壊滅的な被害にも、関係者の情熱と、全国から寄せられた善意の輪によって再建することができた。運営元のNPO法人「AionAion」の那部智史理事長(50)は「数え切れないご支援は一生忘れません」と感謝の言葉を口にする。  
(山田雄一郎)

台風で大被害 富津のコチヨウラン

## 苗のオーナー急増



①新たに購入した苗の手入れをする人たち  
②被災した苗から咲いたコチョウランの花を手にする那部理事長  
＝いずれも富津市西大和田で

## 障害者の栽培施設再建

オーキッドガーデンは、就労困難な障害者が働ける場として、二〇一七年にオープン。敷地面積六百九十三平方メートルで、約二万本のコチョウランを栽培できる。

販売方法は、苗のオーナー「バターフライサポート」を募り、一万円で十株の苗を購入してもらう。この十株を温室で育て、一株をフラワーアレンジメントにしてオーナーに届け、残り九株を企業に販売し、収益を障害者への賃金に充てる。障害者就労支援のモデル

高温で変色したコチョウランの葉

ル事業として、日本財団の支援を受けてきた。

那部さんによると、台風15号が千葉県に上陸した九月九日未明から停電で空調が止まり、室温が五〇度以上昇、半日で苗の葉が変色し、枯れた。自家発電機がなかったため、数日間は手の施しようがなく、苗は全滅状態。すでに開花したコチョウランも廃棄した。被害総額は五千万円を超えた

が、「全財産を売り払ってでも事業を続けるつもりでした」と那部さん。ピンチをチャンスと考えた。

手がけたのがオーナーの

急募。報道機関や自社のインターネットサイトを通過して窮状を訴え、振り込みでの寄付も受け付けた。既存のオーナーからも、ツイッターやフェイスブックで全国に支援を呼び掛けた。まだ生きていた苗をネットオークションに出し、二十株単位で二千元から販売する

にも挑戦した。必死の訴えは全国各地から共感を呼んだ。オーナー数は被災直後の千人から千五百人に増え、企業・個人の義援金も寄せられた。台湾の契約農家との間で苗の仕入れルートを確保してい

たことで、生産量は以前と同水準にまで戻った。現在、十二人の障害者が、温室の苗に花を咲かせようと手入れに汗を流す。



「農業をやっているという意識が足りなかった。自然災害に対するリスクテイクの大切さを学んだ」と那部さん。十月の台風19号では、事前に大型の発電機を借りたため、停電になってもすぐに復旧したという。「人の温かさを感じました。被災経験を糧にこれから歩んでいきます」。新たな挑戦に手応えを感じ、笑顔のぞかせる。